

中学校特別支援学級における教育的支援の継続や連携を重視した個別の指導計画の検討

A study on Individual Teaching Plan intended Continuation and Cooperation of Educational Support at Junior High School Special Support Classes

松本和久*・福田大治*・坂本 裕**

Kazuhisa MATSUMOTO, Daiji FUKUTA and Yutaka SAKAMOTO

はじめに

平成11年3月に盲学校・聾学校及び養護学校学習指導要領で「個別の指導計画」の作成が明示されて以降、特別支援学級においても「個別の指導計画」に基づく支援が行われるようになってきた。このような中、特別支援学級においては、学年間の継続や小学校から中学校への継続が容易ではないといった設置上の課題から、児童生徒一人一人への教育的支援の長期的な見通しを特に意識した「個別の指導計画」の運用が特に求められている(坂本・西, 2002)。さらに、平成20年版小学校ならびに中学校学習指導要領に、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒についても個別の支援のための計画を策定することが明記され、その先行的取組をなしている特別支援学級の「個別の指導計画」がその運用に関する知見を提供すべき役を担うようになった(文部科学省, 2008a・2008b)。

本稿では、こうした小・中学校の状況を受け、次年度学級担任が替わった際の引継ぎや教科担任間の連携といった課題にも対応すべく「個別の指導計画」について形式・内容等を検討し、中学校特別支援学級において実際に運用した結果を報告する。

方法

1 対象学級

A 中学校知的障害特別支援学級

2 検討資料

・A 中学校知的障害特別支援学級平成X年度個別の指導計画(以下、新書式)

新書式は、図1のように個人シート1・個人シート2・平成X年度年間計画・平成X年度前期(後期)の4シートで構成され、それぞれA4判である。

・A 中学校知的障害特別支援学級平成X-2年度個別の指導計画(以下、旧書式)

旧書式は、通知表と一体化した個別の指導計画となるよう意図して検討過程を含め、松本・松井・上野・長屋(2005)、松本・坂本(2006)に報告した。

3 検討方法

以下の変更点について、平成X年度に実際に運用した結果から検討を加える。

・教育歴・相談歴・療育歴が旧書式では自由記述形式であったが、新書式では記入項目予め設定して記述する。

・学習計画に年間計画の記載を新規に加える。

4 検討期間

平成X年3月～平成X+1年5月

* 岐阜大学教育学部附属中学校

** 岐阜大学大学院教育学研究科

結 果

1 教育歴・相談歴・療育歴の記載

(1) 書式

個人シート1には活用頻度の高い、生徒の現在の情報を中心に記載できるようにした。そして、個人シート2には生徒の育ってきた過程にかかわる情報を中心に記載できるようにした。さらに、中学校卒業までの3年間加筆・修正しながら使用が可能となるようにした。

(2) 運用

個人シート1, 個人シート2ともに、まず入学前の保護者との面談の中で面談担当者が作成するようにした。そして、出身小学校の担任との引継ぎの際に加筆・修正を行うようにした。

(3) 結果

前年度のうちに生徒の基本的な情報を整理することで、新年度の学級担任が入学式の前に生徒の姿をおおよそ把握したうえで、入学式当日を迎えることができるようになった。また、生徒がこれまでに、いつ・どこで・どのような支援を受けたかが明確になり、出身小学校や療育機関、主治医等との連携がよりスムーズにできるようになった。

2 学習計画の記載

(1) 書式

平成X年度年間計画は新たに付け加えた項目であり、新書式の中心となるものとした。「将来の自立や社会参加の姿」「中学校の段階で目指す姿(長期の目標)」「今年度の段階で目指す姿」を記載し、そして子どもの姿に基づいた「年間の目標と手立て」とその評価を記載するようにした。

(2) 運用

平成X年度年間計画の作成後、授業で取り組む内容を具体化し、前期(後期)の各教科等の目標と手立てを平成X年度前期(後期)に記載するようにした。これら平成X年度年間計画・平成X年度前期(後期)に学習の様子と出欠状況等を書き加えたものが、前後期の通知表となるようにした。

(3) 結果

新書式の中心となる平成X年度年間計画では、4月中旬に「将来の自立や社会参加の姿」「中学校の段階で目指す姿(長期の目標)」を保護者に尋ねておき、4月下旬の家庭訪問の際に保護者と学級担任とで共通理解を図ることができた。保護者の中には子どもと過ごす毎日のことで精一杯で将来像を描けずにいる場合もあったが、学級担任と話す中でイメージをもつことができるようになり、子どもの将来について考える機会となった。この「将来の自立や社会参加の姿」「中学校の段階で目指す姿(長期の目標)」を基に、学級担任は4・5月のうちに「今年度の段階で目指す姿」と、「生活面」「運動・身体面」「社会性・コミュニケーション面」「学習面」において一年間を通して取り組む「年間の目標と手立て」を設定することもできた。なお、これらの目標や手立ては、日々の連絡帳等を通じて保護者と共通理解を図るようにもした。

また、平成X年度年間計画の作成後、各教科担任が授業で取り組む内容を具体化し、前期の各教科等の目標と手立てを記載した平成X年度(前期)の作成ができた。さらに、夏休み前の個人懇談で、年間や前期の目指す姿に向けた生徒の姿や授業での様子を保護者に伝え、その思いや意見を交流するとともに、充実した夏休みを過ごすことができるように、夏休み中の家庭での取組を相談することができた。

そして、前期末にはこれら平成X年度年間計画・平成X年度前期に学習の様子と出欠状況等を書き加えたものを通知表とした。旧書式での通知表は教科毎にA5判1枚、合計10枚を綴じたものであったが、新書式ではA3判の両面見開きで読みやすいものとなった。

さらに、前期の通知表には保護者からのコメント欄を設け、後期の初めにその意見を踏まえて平成X年度年間計画の「年間の目標と手立て」を修正し、平成X年度後期の「後期の目標と手立て」を新たに設定することができた。冬休み前の個人懇談でも、保護者と生徒の姿や授業での様子の話し合い、冬休み中の家庭での取組を相談することができた。年度末には、前期と同様に学習の様子等を書き加えたものを、後期の通知表とすることができた。

「個別の指導計画」〈個人シート1〉 A 中学校 養護学級

作成	月	日	記入者
初回改訂	月	日	記入者
次回改訂	月	日	記入者

ふりがな 生徒名	男 女	生年月日 平成 年 月 日	入学年月日 平成 年 月 日
ふりがな 保護者名	自宅電話番号 — —	緊急連絡先 — — ()	
住所	〒 — 校区 (中学校)		
通学方法	自宅 → A 中学校		
家族構成	本人 人 家族		

◆現在の様子

療育手帳	有() 無し 申請中
診断名 (もしあれば)	・診断された機関 () ・診断された年齢 (歳 ヶ月) ・主治医 ()
服薬	薬名 () 使用期間 (歳 ヶ月 ~) 服薬の効果、症状、副作用、配慮点など ()
コミュニケーション 言語表出 言語理解 要求行動 拒否行動 等	
身辺自立 着替え 排泄 食事 等	
興味関心、こだわり	

「個別の指導計画」〈個人シート2〉 A 中学校 養護学級

生徒名	作成	月	日	記入者
	初回改訂	月	日	記入者
	次回改訂	月	日	記入者

◆生育歴

妊娠中	
出産時	
乳幼児期	・首の張り(歳 ヶ月) ・一人歩き(歳 ヶ月) ・離乳(歳 ヶ月) ・始語(歳 ヶ月)←()
ことばの発達	
運動の発達	
情緒・行動の発達	
身体的特徴	利き手: アレルギー: 視力の異常: 聴力の異常: 偏食: 睡眠の異常: 健康状態: その他:

◆教育歴

期 間	園・学校名・学級名
平成 年 月 ~ ()歳	立 園入園
平成 年 月 ~ ()歳	立 小学校入学
平成 年 月 ~ ()歳	
平成 年 月 ~ ()歳	

◆科目談話・療育歴

機関名	時 期	内 容
	平成 年 月(歳 ヶ月)~ 平成 年 月	
	平成 年 月(歳 ヶ月)~ 平成 年 月	

◆諸検査

日 時	検査内容及び 検査結果
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	
平成 年 月 日	

◆保護者の願い

本校の志望動機	現時点でのお子さんの将来のイメージ

「個別の指導計画」〈平成X年度年間計画〉 A 中学校 養護学級

()年度入学 ()年生 生徒氏名 ()
記入者氏名()

将来の自立や社会参加の姿
中学校の段階で目指す姿(長期の目標)
今年度の段階で目指す姿

項目	年度初めの姿	年間の目標	手立て	年度末の評価
生活面 (食生活・服装・排 尿・清潔・物の取 扱・スケジュール の管理・安全の認 識・その他)				
運動・身体面 (健康状態・全身 運動・手指の操 作・運動力・持久 力・強心動作・そ の他)				
社会・コミュニケ ーション面 (対人関係・集団 参加・意思表示・ 指示理解・聴覚・ 思いやり・興味関 心・喜び・余暇・ 情緒・その他)				
学習面 (教科書・読書 力・ことば・か ず・物へのこだわ り・その他)				

※本年度特に大切にしたい目標に「●」印

「個別の指導計画」〈平成X年度前期(後期)〉 A 中学校 養護学級

()年度入学 ()年生 生徒氏名 ()
記入者氏名()

	今学期の目標	手立て	日常生活の様子
日常生活			

	今学期の目標	手立て	学習の様子
国語			
数学			
音楽			
美術			
保健体育			
英語			
生活学習			
ICT活用			
総合学習			

図1 A中学校知的障害特別支援学級 平成X年度個別の指導計画

まとめ

本稿で示した「個別の指導計画」の利点は、「将来の自立や社会参加の姿」をもとに、その姿につながる「中学校の段階で目指す姿（長期の目標）」「今年度の段階で目指す姿」「年間の目標と手立て」「前期（後期）の目標と手立て」を設定したことである。これにより、従来は各教科担任が設定していた目標と手立てであったものが、長期の目標から日々の授業における目標と手立てまで一貫したものとなり、生徒一人一人の自立や社会参加に向けた方向性を明確にした支援が可能となった。また、中学校は教科担任制で一人の生徒に複数の教師がかかわっているが、目指す生徒の姿を学級担任と教科担任とが共通理解して支援を進めることができ、次年度の学級担任への引き継ぎもスムーズとなる。さらに、保護者と学級担任とが連携して目標や手立てを設定したこと、通知表に対する保護者の意見を得たこと等、学校と家庭とが同一歩調で支援ができたことも大きな成果であった。

今後は更に、小学校での「個別の指導計画」を踏まえた支援の在り方や、関係諸機関や進路先との連携の在り方等も含めた「個別の教育支援計画」としての活用を検討していきたい。

付記

本研究は日本特殊教育学会第46回大会（2008年9月、米子市）でその一部を発表した。

文献

- 松本和久・松井実・上野智子・長屋裕一郎（2005）より一人一人に応じた支援の在り方を求めて－通知表と一体化した「個別の指導計画」の作成と活用－. 岐阜大学教育学部附属中学校研究報告, 28, 167-184.
- 松本和久・坂本裕（2006）中学校知的障害特殊学級における生徒一人一人に応じた支援の在り方(1)－通知表と一体化した個別の指導計画の形式の検討－. 日本特殊教育学会第44回大会発表論文集, 450.
- 文部科学省（2008a）小学校学習指導要領. 東京書籍.
- 文部科学省（2008b）中学校学習指導要領. 東山書房.
- 坂本裕・西正道（2002）知的障害教育における通知表を活用した「個への対応」に関する検討(1). 岐阜大学教育学部研究報告（教育実践研究）, 4, 119-127.